

●○○ 第247回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：解説「生成AI」簡単にわかりやすく

講師：三井物産セキュアディレクション株式会社

経営企画部広報グループ シニアディレクター 中山 謙治 氏

日時：2024年10月19日（土）14：00～17：00

場所：日土地内幸町ビル3階 （一社）大日本水産会 大会議室

私達の周りには知らず知らずのうちに生成AIの技術が家電製品、自動運転、スマホの検索、メディアなど様々な分野に組み込まれています。身近に溢れる生成AI、そもそもAIとはなんだろう？興味津々だけど踏み込みにくい世界でもあります。そこで今回は2022年末のChatGPTの登場以来注目を集め続けている生成AIについてわかりやすく紹介していただきました。

● AIとは、その歴史について

AIとは人間の知能を模倣した技術のことです。コンピューターがデータを学習することで人間の言葉や意味を理解して知的に反応します。また大量のデータを学習することで人間が行う推論や問題解決を行えるようになる技術です。

1960年代から始まった人工知能、Artificial Intelligence 略してAIの概念が広まり、当初は識別・分類の領域から、数次のブームを経て、機械学習によるディープラーニング技術の進歩とビッグデータの活用により、現在の生成AIへと日進月歩で進化をしています。

● AIの仕組み

「学習したデータに基づき、ある単語の次に来る確率が最も高い単語を順次出力する」ことであり、事実関係ではなく確率に基づいて出力する文章などを作成します。

● AIと生成AIの違い

従来型のAIは具体的なデータの学習により識別や分類、予測の領域で決められた行為の正確性や効率性、自動化などを提供してくれましたが、生成AIは大量のデータを機械的なディープラーニング（学習）により取り込み、創造性や柔軟性に富んだ文章、画像、音声、動画などを提供してくれる技術です。

● 生成AIの得意なこと、苦手なこと、できないこと

生成AIの役に立つ、得意な業種として、医療における膨大なデータのパターン認識による迅速な画像診断、診療支援や分析、金融サービスにおけるリスク評価などのサポート、物流における最適なルート計算、自動運転技術、法務や行政分野での文書レビュー、契約書の作成など幅広い分野で利用されています。

一方、役に立たない業種として、芸術、料理、工芸、ホスピタリティーなど人間の感性、直観、経験が必要な分野、人間による接触、信頼関係が重要な分野などのように、人の五感や手触りなどが必要な分野は生成AIにはまだ苦手な分野のようです。既存の料理のデータに基づくレシピは出力できるが新しい料理は創造できません。また生成AIはトレーニングしたデータに基づいており、トレーニング後でなければ新しい知識や情報を反映できない、つまり自ら新しい知識の獲得はできないという性質もあります。

●生成A Iの課題

生成A Iはトレーニングデータに依存しているためデータに含まれるバイアスがそのまま反映されてしまい差別、偏見などの倫理的な問題や、道徳、プライバシー、著作権と知的財産権、セキュリティ、責任などが問題となりガイドラインや社会的な調整が必要になります。

●生成A Iのデモンストレーション

後半は実際の業務への有効な導入例を見せていただきました。

一例としてC h a t G P Tを利用して新製品のボールペンを発売するにあたってのプレスリリースをいくつかの条件を提示して提案させたところ、即座に5種類のパターンを提供し、条件の変更にも驚くべき速さで対応するその技術には目を見張るものがありました。

また、今問題になっているフェイク動画、フェイク情報、世論誘導、詐欺に使われている動画などを見せていただきましたが、その巧妙さには驚くとともに怖さを感じました。

●生成A Iは人間の仕事を奪うのか？

「生成A Iが奪うのではなく、生成A Iを使いこなす人や組織が人から仕事を奪う」とのことです。

私たちが生成A Iを利用するために与える入力の指示や質問を「プロンプト」と言い、その内容が生成A Iの出力結果の質に大きく影響を及ぼします。生成A Iと私たちの接点である「プロンプト」の優劣が生成A Iの出す答えに大きな影響を及ぼし、あいまいな指示や不足したものでは生成A Iは誤った結果を出すリスクもあるのです。良くも悪くもプロンプト次第、言い換えれば良くも悪くも望む答えを導き出すこともできるのが「プロンプト」です。良質な「プロンプト」の作成スキルを磨くことが重要です。

●最後に

C h a t G P Tの具体的な使い方と、様々なデモンストレーションを見せていただきました。

講師も参加していただいた懇親会では、参加者が早速C h a t G P Tの無料バージョンをインストールして使い始めるなど生成A Iに対する興味はまだまだ深そうです。

【所感】

「何もないところから、新しいことを作ることができる、これが人間」。生成A Iを恐れるのではなく使いこなそうという気持ちが大切と痛感しました。